

新聞制作において、記事や見出し、写真以外の部分、たとえば地図や表、相関図、カラーシチュエーションといったグラフィックを作成するものが、デザイン担当記者の仕事です。

小さな見出しに付ける1〜4四方ほどのイラストから、紙面全体にかかるような大きな特集グラフィックまでさまざまに手掛けます。

記者から「記事につけるこんなデザインを」と依頼を受けてから、パソコンのソフトを使用して

グラフィックを作成します。パソコンが導入される以前は、「溝引き」（筆で直線を引く技法）などを使用し、手描きで作成していました。

ほかの分野と違って、新聞におけるデザイン業務の特徴は、情報の正確さが最優先されることです。見栄え良く描くことは二次。情報を読者に正しく届ける手

助けをするのが大きな役割です。頭の中で組み立て、提案し、締め切りまでに素早く形にします。速報性が求められる事件現場の地図などは、10分から1時間程度で作成します。読者の地域性を考えながら、たとえば遠く離れた場所で起きた事件であれば広域の地図にするなど、地図を切り取る範囲を決めます。そして必要な情報

記事を読み進める「道しるべ」



パソコンでグラフィックを作成する森井真理記者—大阪市浪速区の産経新聞大阪本社

を地図に落とし込みます。日頃からニュースをチェックしアンテナを張っておくことが、上質なグラフィックを作る上で重要です。

ニュース以外にも、たとえば生活面や文化面、新春の特別対談などであれば、紙面を華やかに飾り付けることもあります。

グラフィックは、記事を読み進めるためのいわば、道しるべ。ほかの分野のデザインに比べれば、少々地味な仕事に見えるかもしれませんが、ニュースという暮らしに不可欠な情報に携われるデザイン業務は、とても魅力的です。

(森井真理)

次回は8月13日に掲載します

新テスト 受験生どう挑む

英語民間試験導入なし コロナ禍も追い打ち…

来月1月、大学入試のため新たに実施される「大学入学共通テスト（新テスト）」の日程が明らかになった。新型コロナウイルスの影響で、学業の遅れが懸念される現役高校生のため「第2日程」を設けた特別日程。「配慮はありがたい」との声も聞こえるものの、特に今回の大学入試は、コロナ禍以外にも、さまざまな制度導入案が出されては消えており、「振り回された」感の強い今年の大学受験生へ、教育関係者からは同情の声もある。

文科科学省は先月、全国の国公私立大などに要項を通知。従来通りのスケジュールの「第1日程」（来月1月16、17日）に加え、休校で影響を受けた現役高校生のため「第2日程」（同30、31日）も設けた。

第2日程を受けることができれば「学業の遅れ」のため当該日程で受験することが適当であると学校長に認められた「現役高校生で、浪人生は対象外。

高校や塾などの関係者からは「実際に第2日程を設けるなど、できる限りの配慮をしていく」との声も聞かれる。

しかし、兵庫のある私立

2次備え「第1日程」推す声も

高校の大学入試担当の教諭は「配慮はありがたいが、子供たちにとっては厳しい入試となるのでは」と表情を曇らせる。

現時点では、第1か第2のどちらを受験するか、生徒が個別に選べるようにするのか、学校ごとに選ぶのかは「学校の判断」と決まっているだけ。

新テストなので、第2日程を選び第1日程の問題や傾向を見定めてから臨む受験生が出ることも想定されるが、この教諭は「その後行われる私立大や国公私立大の入試日程は基本的に変わっておらず、第2日程では後の試験への準備期間が短すぎる」と指摘する。

昨年だけでも、英語の民間試験導入見送り（11月）、国語と数学への記述式問題導入も見送り（12月）が決まるなど、今年度は、受験生が大きな影響を受ける制度変更が続いてきた。

この教諭は「私たちの学校ではオンライン授業などを行い、大きく遅れず授業ができた。子供たちには、自分がこれまで取り組んできた勉強を信じてしっかり試験に臨みなさい」とアドバイスしたい」と話す。

大阪府内の、別の私立高校の入試担当の教諭は「現場の教員も、どう指導すれば

は、生徒が希望する進路を実現させてあげられるか悩んでいる。文科省の決定はあまりにも後手後手で、一貫性がなないように思える。今後、しっかりとした大学入試制度を構築してほしい」と訴える。

大手予備校、河合塾（名古屋）の富沢弘和・教育情報部長は「個人的な見解」と前置きした上で、1月16、17日の第1日程で新テストを受験するスケジュールを勧める。

富沢部長も、第2日程での受験では「その後に控える2次試験に向けた準備期間が短すぎる」ことを重視。またコロナウイルスの国内での今後の感染状況も見逃せないため、「自分の健康、周囲の状況を考えても、早い段階で試験を受ける方がいい。試験日程を遅くすることはリスクが高い」とも話す。

例えば第2日程の試験を受けられない場合、今回は「特別追試験」が2月13、14日に行われるが、実は新テストではなく、平成27年度、旧大学入試センター試験時代の問題を受験しなければならぬ。しかもすでに試験が進んでいる私立大学が、その成績をどう利用するのかわからない。

富沢部長は「コロナウイルス禍の前から、自分で計画してきたスケジュールを大切にすれば、第1日程での受験になる。予定通り、気持ちを落ち着けて、大学入試に臨んでほしい」と話している。



今年度の大学入試をめぐる出来事

大学入学共通テスト(新テスト)の英語への民間検定試験導入見送り(令和元年11月)	英検やGTECなどの試験の活用を予定していたが、準備不足だったことや、居住地域や経済状況によって格差が広がる恐れがあることなどを理由に延期
新テストの国語・数学への記述式問題の導入見送り(令和元年12月)	国語と数学に記述式問題を導入予定だったが、採点ミスの懸念をゼロにできないことや自己採点が難しいことなどから、導入するかどうか自体を「白紙」に
新型コロナウイルス問題で安倍晋三首相の休校要請と非常事態宣言(令和2年3月~5月)	感染拡大防止のため安倍晋三首相が全国の小中高に対して3月から春休みまで休校を要請。その後、非常事態宣言の発令、全国への拡大(5月に解除)もあり、授業に影響が出ている

学ぼう 産経新聞

夕刊「学ぼう産経新聞」では、家庭や学校などでの新聞を活用した教育の方法などについて紹介しています。教育現場の先生たちや保護者の方々の声を参考にしながら、中高生たちの学びをサポートしていきます。



新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける子供たちの学習に役立つ、文科科学省の「子供の学び応援サイト」のコンテンツリンク集に、この教育ページ「学ぼう産経新聞」のウェブサイトが紹介されています。

「文科省のリンク集」アドレス
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00460.html

「学ぼう産経新聞」アドレス
https://www.sankei.com/nie/nie.html

「学ぼう 産経新聞」 ご活用ください

現場の先生方の声もお聞かせください。出前授業のご相談なども受け付けています。メール (nie@sankei.co.jp) か「教育プロジェクト@産経」(https://sankei-kyoiku.com/) 紙面について読者のみなさんのご意見を募集しています。